

青総社会科新聞

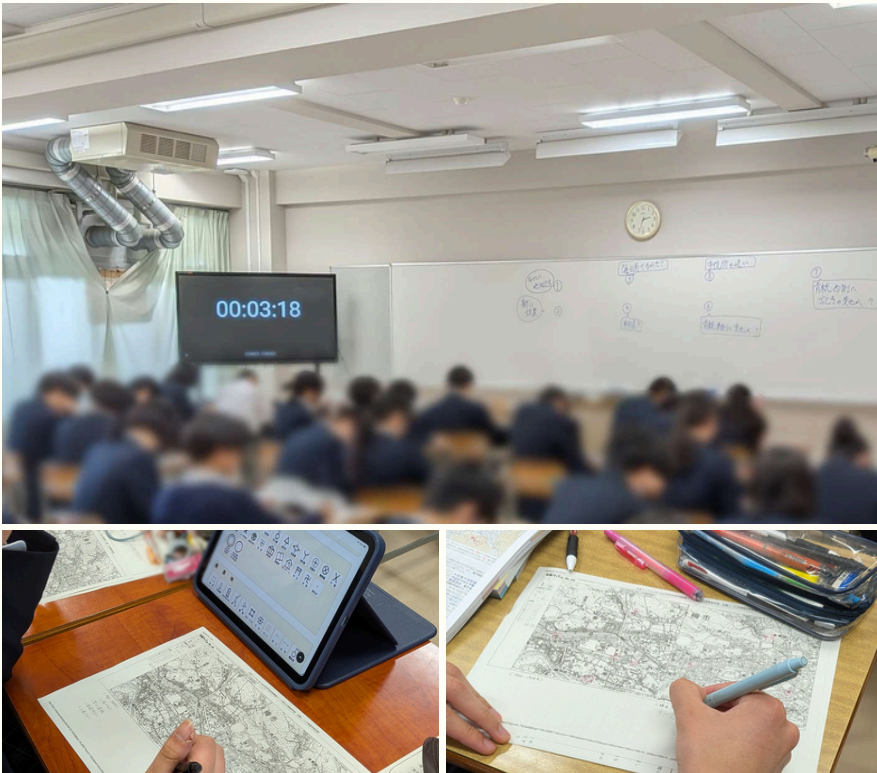
紹介する授業
選択必修
「地理総合」

2・3年次

発行日
2026年6月12日

2026年
6月号

学校周辺 新旧地図で比べたら？



記念すべき初号は、本校選択必修科目である「地理総合」の授業での取り組みを紹介します。

地理総合の授業では地理に関わる基礎的な知識を学ぶと共にそれを活用する力を養う授業を行っています。

今回ご紹介するのは「身の回りの地図」という内容の授業。本校周辺の新旧地図を比べることで地図の読み方に加えて、地域の歴史をも知ることができるとを伝えました。

生徒が主体的に考えながら学びを深められるような授業を今後も展開してまいります。

また、地理総合の授業では毎授業の終わりにその日の授業で学んだことを生徒自身の言葉でまとめる「リフレクション課題」を出しています。本授業のリフレクションを読んでみると、「昔と今の地図を見比べると、新たな発見がたくさんあって面白かった。そのため、自宅周辺の地図も見比べてみたいと思った。」「地図は主題図と一般図という種類に分かれており、主題図が身近に多く使われていることがわかった。また地図記号で青梅の今と昔の違いに気づくことができました。」といった振り返りがありました。今後は世界の地形を学んでいくため本時の学びを活かして取り組んでほしいです。

特色ある授業を

紹介していきます！

今月より、青総社会科新聞を発行してまいります。随時ホームページ、「特色のある授業」に掲載していきますので、本校社会科の授業を見学しているつもりで、読んでいただけると幸いです。次回もお楽しみに！

社会科コラム

学校教育と寺子屋

学校教育の元をたどると多くの人が江戸時代の「寺子屋」を想像するでしょう。明治時代より始まった「学制」よりも昔に存在していた寺子屋教育の多くは地域・師匠によって学習内容が異なっていました。

埼玉県行田市にあった「玉松堂」という寺子屋では習字を基本として読み書きを中心に教授していたといふ。さらには習熟度別でその授業が行われ、「斉に同じ向きを向いて話を聞くスタイルでなかった。私たちがイメージする「学校の元」よりも今という「個別指導塾」の傾向が強かったといふことができる。

歴史を詳しく細解くと、イメージとは違った真実が見えてくる。そこが歴史研究の楽しさであるのだ。

地歴科 廣田